令和4年度（2022年度）

学校評価表(自己評価)

学校番号	38	軽井沢高等学校

重点目標 （中・長期的）	1　国際親善文化観光都市である、軽井沢ならではの地の利を活かした学びを推進し、地域に信頼され、地域に貢献できる学校を目指す。 2　生徒の安心安全な学校生活を保障すると共に、主体的な活動を推進し、発信力・コミュニケーション力・協働性を有する人材を育成する。	総合評価 1　コロナ禍にあり制限はあったものの、授業、課外活動において軽井沢町を中心とした地域での学び・地域との連携を積極的に行った。今後も地域の資源を有効に活用した「本校でしかできない学び」を通じて、生徒の自己有用感、社会の一員としての自覚と責任感の醸成に努めていきたい。 2 「生徒一人ひとりの良さや個性を認め伸ばす」ことを意識した学習指導、生徒指導により、穏やかな雰囲気の中での学びを継続することができている。今後も丁寧な生徒理解と生徒支援に努め、子どもたちの社会的資質・能力の醸成に努めていきたい。

今年度の重点目標		成果と課題
①	生徒と共に作るよりよい授業に向けた授業研究を推進し、生徒の学習意欲向上および基礎学力の定着を目指す。	授業研究については、学習指導要領新課程実施に合わせて、生徒の声を大切にし、より効果的な授業カリキュラム・評価方法などを教科を超えて、全職員で引き続き研究を重ねていきたい。生徒の学習意欲については、各年次・学年の取り組みにより向上が見られた。この取り組みを精選しつつ引き継いでいくとともに、学習意欲が次の学習に繋がるような工夫をしていきたい。
②	社会の一員としての責任感を養い、規律を持たせるための粘り強い指導を行う。	規律意識を向上させるという目標に向けて、きめ細かな指導を各学年がしっかり行ってくれた。今後はさらに、職員・保護者・地域との連携を密にし、日常的な相談や生徒理解を重視し、生徒の心の変化にも気づく、きめ細かく丁寧な指導を心がけたい。また問題行動を未然に防ぐような予防教育にも力を入れていきたい。
③	生徒が深く考え、判断し、行動できるように主体的な活動を推進する。	
④	多様な考えをもつ人々と協働できるよう支援する。	生徒会活動を通して、生徒の主体的な活動を支援した。また、様々な行事を通して、周りの意見を取り入れながら協力して活動をやり遂げられる生徒も見られた。今後は安直な思考・判断に流れないよう、どのように思考力・判断力をつけていくかを教育活動全般で考えていきたい。

領域	対象		評価項目（活動目標）	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
	進路学習指導	①	生徒の学習意欲向上を目指した授業研究	授業互観旬間・授業アンケート・授業研究会を効果的に実施できたか。	・授業互観旬間では「サンキューカード」と「チャレンジカード」を作成し、互観しやすい雰囲気を校内で作ることができた。引き続き参加率の向上に向けて工夫したい。 ・授業研究会では、授業の在り方について教科を超えて意見共有することができた。	B	・授業の質の向上に向けて、授業互観旬間、授業研究会、授業実践、授業アンケートが一連のつながりを持った取り組みになるように工夫していきたい。 ・軽高会議や授業アンケートで出てきた生徒の声を大切にし、授業実践につながるよう率先して推進していきたい。
		①	意識調査を活用した教育活動の実践	意識調査を活用して、学習意識の向上ができたか。	・昨年度に引き続き1月の基礎力診断テスト（1・2年）や学年末考査（3年）の時期に合わせて、学習意識調査を実施した。3年生は入学時に比べて、「高い目標に向かって挑戦できる」など、自己の成長実感や学習意識の向上が見られた。	C	・各学年の進路行事の事後など様々な教育活動で学習意識の変容を引き続き図っていきたい。また、ただ単に調査するにとどまらず、結果を進路行事等の内容を計画する中で有効に活用していきたい。
		③	生徒の成長につながる「総合的な探究の時間」の評価方法の構築	設定・提示した評価方法が、生徒の主体的・意欲的な活動へとつながったか。	成果：中間報告に記載した通り、1回の授業の評価方法を提示した上での授業は、生徒にとって目標設定となり、意欲的な活動へとつながることがわかった。これを元に、1・3年生でも同形式の授業を行い、教員間での指導・評価の差や、評価基準を設定する際の項目や程度に難しさがあることがわかった。「総合的な探究の時間」の評価基準・評価方法について、全年次・学年分作成し、生徒に提示することができた。 課題：各年次・学年において、スキルを教える回と活用する回の2回を行う予定であったが、2・3年生では1回にとどまった。こちらが提示した評価と、生徒が自ら目標・評価設定したものと2つを用意し、全段階中の自分の位置や進捗の自己認識と他者評価のズレの認識を図る機会があってもよかった。	C	・授業者間での、授業方法・評価基準・評価方法・年間での位置づけなどについて、早めの共有や検討を行うこと。 ・3年間で探究的思考が成長していくよう、3年間を見据えた積み上げ方式の授業展開。 ・単位数が少ない分、見通しある授業設計と生徒への提示。 ・生徒が自ら目標・評価設定する機会を設けること。
		①	生徒の学習課題の分析と個別最適支援	効果的な支援を行い、基礎力診断テストのGTZを向上できたか。	・結果から、各学年、基礎力診断テストに向けて事前指導（学年集会やワークシート）を行うことで学習意欲の向上やGTZの上昇が見られた。その反面、継続的な学習習慣の定着に課題を残している。 ・分析結果を職員全体で共有することができた。これらを具体的な実践につなげていきたい。	B	・事前指導としての意識付けがより効果的なものになるように、今後も継続して行っていきたい。また学習習慣の定着に向けて、事後指導を工夫していきたい。 ・より生徒個々に見合った学習支援が行えるような環境や取り組みを構築していきたい。
	生徒指導	②	安心安全な学校生活の実現	問題行動を未然に防止する「予防教育」と指導ができたか。	担当を決めて校内巡視や、昼の立ち番を行った。一方で、回数等を変更し職員の負担軽減に努めた。生徒指導係で朝・空き時間・昼休みにゴミ拾いを兼ねて外の見回りをしたり、また放課後駅周辺を巡視して、生徒へ声がけをしたりして見守った。また職員会では、情報の共有を図り、指導の共通理解を促すよう努めた。	B	大きな問題になる前に適切に対応し、未然に防ぐことができたと思う。引き続き、問題行動になる前に未然に指導をしていく予防教育を継続・徹底していきたい。
		②	交通安全の徹底	交通法規や校則を遵守し、交通事故防止を図ることができたか。	春と秋に朝の交通安全立ち番を行い、自転車の乗り方等について声かけ指導を行った。併せて矯風交通安全委員会による自転車置き場でのステッカー貼付、盗難防止指導を行った。また、随時、ヘルメット着用を呼びかけた。	B	防災交通安全講話を軽井沢警察署の方を講師により行った。立ち番については、職員の負担軽減に留意しながら継続実施していきたい。
		③	自覚と責任ある行動の実現	高校生としての自覚と節度ある行動を各部署と連携して指導できたか。	今年度もコロナ禍の中で、生徒の人間関係作りが円滑に進むよう、きめ細かな指導を各先生方に行ってもらった。また、電車の乗り方についてのマナーや、歩道の歩き方についても職員会で周知し、SHR等で担任より注意喚起を促した。	B	長期休業の前には保護者宛に長期休業の過ごし方について文書を作り、配布をしている。保護者の手元に文書が渡らないことも考えられるので、オクレンジャーを使うことも検討したい。また、マナー喚起については生徒会と連携して注意喚起をすることも検討したい。

	対象	評価項目（活動目標）		評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
	特別活動	②	クラブ活動の活性化	恒常的な活動をするクラブ員数を増やせたか。	・4月からのクラブ活動加入率50.9%である。 ・生徒会で2学期初めに、クラブ活動に対する意見箱を設置したが、あまり効果はなかった。	C	・今年度は220人中112人がクラブ活動に参加しているが、七年程前からクラブ員数の減少が続いている。 ・活動を紹介する新聞等を使って、クラブに触れる機会を増やし、参加しやすい環境を整える。
		③	読書習慣の定着と授業連携	朝読書・学級文庫の実施、授業を含む図書館活用を広げられたか。	・年2回の読書旬間では2週間に渡り、通常は隔週火曜日に朝読書を実施。図書委員による学級文庫を設置し、朝読書の習慣が定着してきている。特に秋の読書旬間では、春よりも学校全体の取り組みが良くなった。 ・図書委員会のイベント（読書旬間・百人一首大会・店頭選択など）を行ない、全校生徒の図書館活用を広げられた。	B	・読書に取り組むことが難しい生徒に対しての対策を検討する。 ・生徒図書委員との連携を図り、図書館に親しむような企画等を行なう。 ・授業利用などの教科との連携で、読解力の育成に取り組む。
		②	生徒会の主体的な運営	生徒が主体的に活動し行事を運営することができたか。	・一部ではあったが文化祭を一般に公開したり、初めての体育祭を企画運営したりするなど、主体的に活動できた。 ・昇降口前の掲示板を有効活用して、ボランティアや校外活動を広報し、全校生徒に参加を促すことができた。 ・大きな行事に気を取られてしまう点があり、各委員会での独自の活動が発展していないように考えられる。	B	・生徒の話し合いや企画立案の段階に寄り添い、生徒自身が持っている思いを具現化できるように支援する。 ・委員会活動や日頃の活動を通して、三役や固定された役員だけでなく、役員全体や全校生徒の意識が変わっていくような雰囲気作りに努める。
	人権平和	④	生徒の自己肯定感・人権感覚の育成	人権・平和・いのちの学習を通して、豊かな人間性を育むことができたか。	・女優のサヘル・ローズさんを招き「出会いこそ、生きる力」というテーマで講演をして頂いた。虐待・紛争・いじめ・自殺といった題材をご自身の経験を通した言葉で語られ、生徒が皆熱心に聞き入る様子が見られた。事後感想文でも印象に残った言葉を多くの生徒が書き記し心に残る講演となった様子であった。 ・「いのちの月間」と職員研修については取り組みに課題を残した。	B	・来年度も年度初めに全校人権学習のテーマを決定し、学習内容を決定する。 ・「いのちの月間」の取り組みについて、人権意識向上を図るために検討していきたい。 ・職員研修について充実を図りたい。
	学校保健	③	心身の自主的健康管理の推進	自らの健康について関心がもてる取組、機会を設定できたか。	・今年度も新型コロナウイルスの影響により、日頃の感染対策を引き続き実施した。前年度との違いは健康観察の簡略化と、施設物品の消毒を職員監督のもと生徒が主体的に実施できるよう促した。生徒が自ら健康を守ることができるような取り組みにつながったと考える。 ・今年度は文化祭も外部参加が可能となった。そのため保健委員を中心に感染対策や啓発運動を行うことができた。	B	・コロナ対策をとる生活も3年目を迎え、徐々に生活に順応してきた。その半面、生活の中に慣れが出てくる場面も増えてきた。次年度の学校様式がどのように変化するか分からないが、生徒の健康を守りつつ、より良い学校生活とするために引き続き必要な感染対策を生徒と相談しながら考え、実施していきたい。
	営繕美化	②	校地内外の環境美化の徹底	毎日の清掃を通して、生徒自ら学習環境の整備と校地内外の美化に取り組むことができたか。	・町より配布された花苗をロータリー周辺の花壇に植えて景観に彩りを添えることができた。 ・文化祭準備期間に、営繕美化委員を中心に校内美化活動を行うことができた。 ・校地外の清掃活動については実施することができなかった。	B	・花苗が多く余ってしまったので、次年度以降は植え方等も検討していきたい。 ・校地内外の美化については、教員や生徒の意見も取り入れながら、より美化意識が高まるような取り組みを計画していきたい。 ・清掃用具、モップの新調を進めることができたので、次年度以降も継続的に行いたい。
				ゴミの分別を全校で徹底することができたか。	・年度当初はゴミの分別が徹底できていないことが多かったが、先生方や委員の呼びかけもあって年度末には改善することができた。ペットボトルや缶の中身が入った状態でゴミステーションへ持ってくることが夏場は多かったので、捨て方の意識を徹底していく必要がある。	B	・継続的な呼びかけによってゴミの分別は改善したので、年度が変わっても分別に対する意識を継続させていきたい。 ・今年度は先生方からの呼びかけが中心になってしまったので、もう少し生徒が主体的にゴミの分別に取り組めるような取り組みを考えていきたい。
学校運営	地域との連携	③	三者でつくる軽高会議の発展	三者協働で学校をよりよくするために話し合い、それを実現できたか。	・第45回を7月に、第46回を11月に開催した。 ・第45回は「軽井沢高校を過ごしやすい場所にするために、一人一人にできること」をコンセプトに課題を出し合い、改善策を考えた。 ・第46回では、4か月間での取り組みの報告を行い、さらにそれを発展させていくための討議を行った。	B	・生徒会行事が多い中で実施が問われる声も上がったが、会議開催の意義を考えることができた。 ・話し合いの場では、三者がそれぞれの立場から忌憚のない発言が出され、充実した会議になった。 ・行動に移す期間が短かったので、活動を継続できるような工夫を考えたい。
		①	私たちの住む地域について理解を深める	外部人材や大学等と連携した効果的な授業が企画できたか。	「軽井沢学」「観光」「デュアル」に加え、「演劇・環境ワークショップ」「スケート体験」「主権者教育」「フォト講座」、大学連携の一環として「大学模擬授業」などが加わった。 効果的な活動は来年度も継続して実施したい。	B	学年の振り返りアンケートや卒業生アンケートを利用して、生徒にとって効果的な学習活動を把握する。 引き続き、町内企業や人材の開拓を軽井沢町推進員と協力して進めたい。
		④	本校の教育活動についての情報の発信	各種媒体を活用して教育活動を発信することができたか。	体験入学・公開授業・学校案内パンフレット・各種新聞等で、本校の教育活動や単位制についての紹介を繰り返し行い、志願予定数が昨年に引き続き1.0倍を超えた。	B	HPに学校案内を掲載できないか検討中である。
	ビジョン	①②③④	魅力ある学校の将来ビジョンの構築	軽井沢高校ならではの3つの方針をブラッシュアップできたか。 軽井沢高校の特色や魅力をグランドデザインで示すことができたか。	8月に実施した単位制研究会で、3つの方針や軽井沢高校のグランドデザインのブラッシュアップに向けて議論をすることができた。それらを元に、年度内での作成に向けて検討している。	C	生徒の様子を踏まえながら、3つの方針を継続的により洗練された形に改良するシステムを構築していきたい。
				意識調査や卒業時アンケートを整理・統合し、分析できたか。	意識調査や卒業時アンケートの質問項目の整理に向けて検討はしてきたが、統合にまで至れなかった。分析については担当部署と連携し行っている。	C	意識調査や卒業時アンケート等を活用して、3年間を見据えた生徒の成長がより効率的、効果的に分析できるように整理・統合を行いたい。
				単位制に関わる研究、及び職員研修を実施できたか。	8月と12月に単位制研究会を実施し、単位制を運営していく中で見えてきた課題や問題点を洗い出すとともに、解決策を全職員で議論、確認する場を設けることができた。	B	次年度は単位制が2年目となり、幅広い自由選択による授業が行われる。その中で見えてくる新たな課題について、引き続き場を設定し、議論を重ねていきたい。
		①②③④	教員業務の精査	校務分掌を含む業務の選択と集中について検討し、実践できたか。	職員の業務の平準化に向け、校務分掌委員会を中心に次年度の校務分掌を見直し、さらに各部にて業務の精選、学年室の設置等による業務の偏りの解消を検討しているところである。	C	次年度、各部の新たな構成のもと部内業務の精選をさらに進めるとともに、職員業務の平準化が図れるよう年次内、部内、および部間の連携を密にする。
			教職員の長時間労働の改善	年休取得率を増加させ、超過勤務を前年比10%削減できたか。	教員の「年休平均取得日数」は昨年度からやや増加した。教員の「平日の時間外勤務時間」は昨年度に比べて13%増の状況であるが、今年度の4月と12月の実績を比較すると27%減であり、徐々に超過勤務回避の意識が浸透してきたことが伺える。	C	時間外勤務時間削減に向けて、業務の精選、平準化を進めるとともに、職員間での積極的な声掛けによる帰宅しやすい雰囲気、年休を取得しやすい雰囲気づくりに努める。

評価	内　容
A	優れている（優れている状況にある）
B	良い（良い状況にある）
C	おおむね満足（課題はあるがおおむね満足できる状況にある）
D	要改善（課題が多く速やかな改善が必要な状況にある）